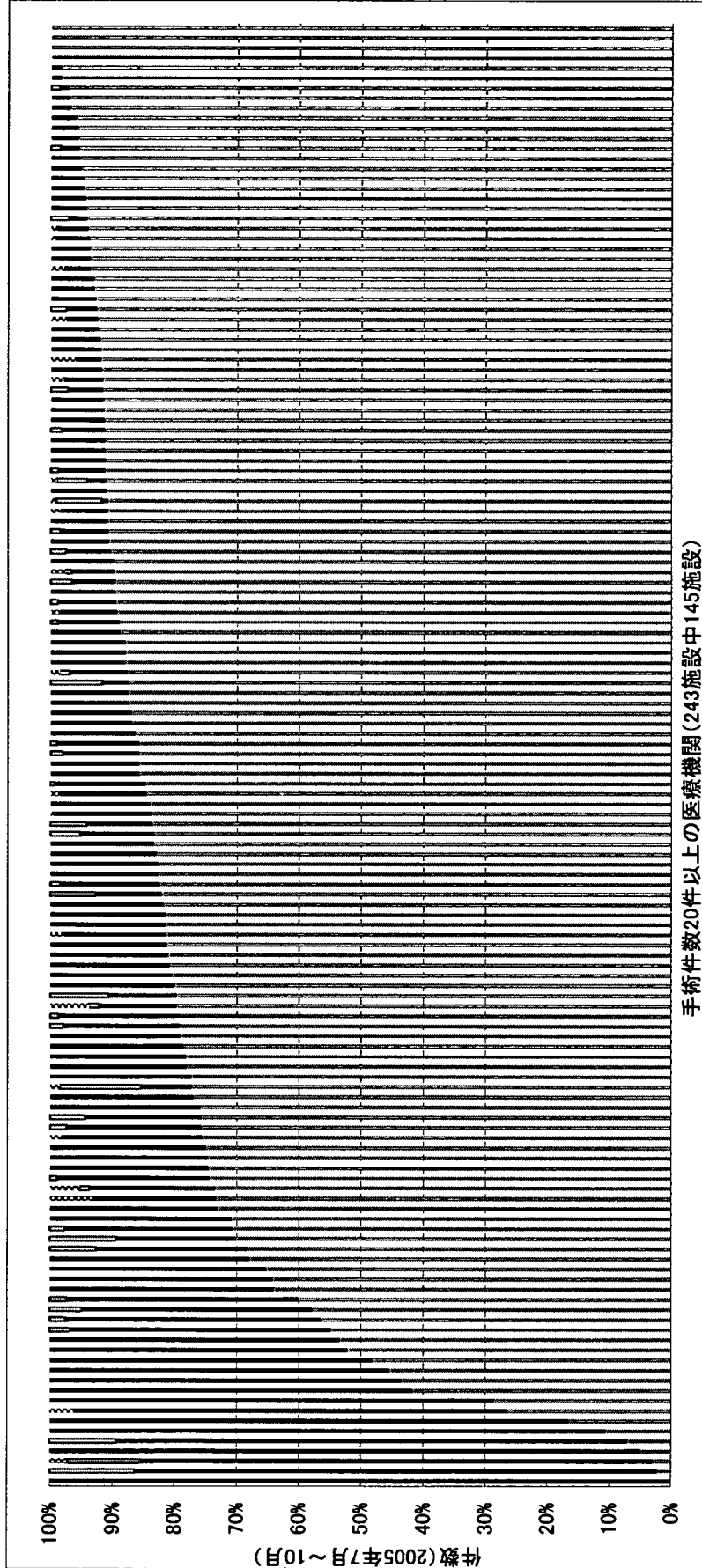


狭心症・慢性虚血性心疾患における経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N = 7,851)

分類名	解析対象DPC番号の範囲	パーセンタイル											
		0500503x05/ 0500503x06/ 0500503x07/ 0500503x08	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患		解析内容	0%	1%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	2%
		アテレクトミー施行割合	0%	1%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	2%
		経皮的冠動脈血栓切除術施行割合	1%	3%	0%	14%	0%	0%	0%	0%	1%	4%	7%
		経皮的冠動脈形成術施行割合	19%	21%	0%	100%	2%	4%	7%	13%	22%	45%	71%
		経皮的冠動脈ステント留置術施行割合	79%	21%	0%	100%	27%	54%	76%	86%	92%	95%	97%



【図の説明】

20件以上の施設を解析対象とした。

■: 経皮的冠動脈ステント留置術[DPC手術コード:05]

□: 経皮的冠動脈血栓切除術[DPC手術コード:06]

■: 経皮的冠動脈形成術[DPC手術コード:08]

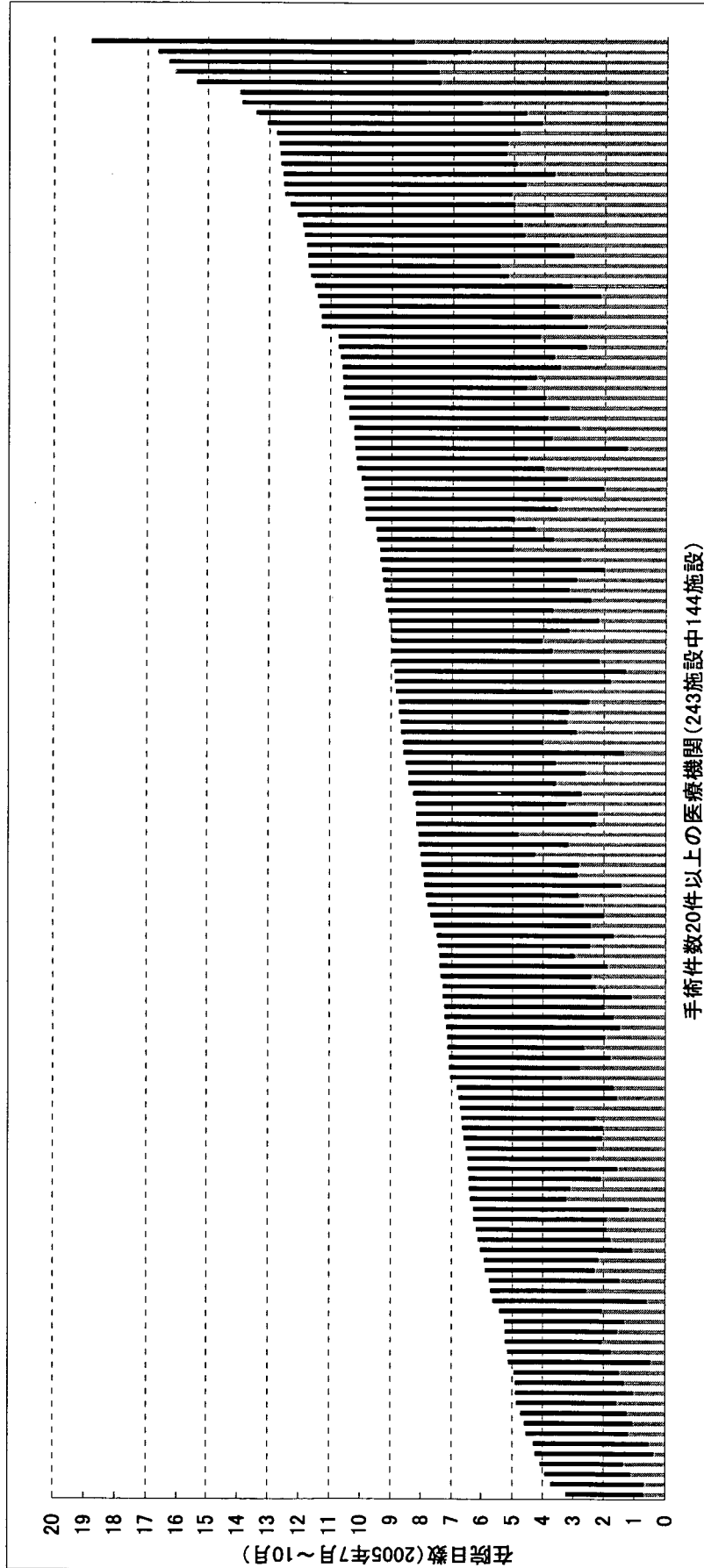
■: アテレクトミー[DPC手術コード:07]

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、手術件数20件以上の145施設を解析対象とした。この解析では、全体的にはステント留置術の選択が主流(全体の79%)で、次いで経皮的冠動脈形成術(全体の19%)の順であった。狭心症・慢性虚血性心疾患では、急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞よりもステント留置術の選択が約6%少なく、アテレクトミーの選択も平均値で5%少なかった。

### 狭心症・慢性虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における平均在院日数(N = 7,632)

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患におけるPCI施行症例	在院日数	8.7	2.9	3.3	18.8	4.6	5.2	6.6	8.5	10.4	12.5	13.4
	術後在院日数	5.8	1.8	2.5	12.0	3.3	3.5	4.4	5.5	7.1	8.2	8.8
	術前在院日数	2.9	1.5	0.4	8.3	1.1	1.3	1.9	2.8	3.7	4.9	5.2



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

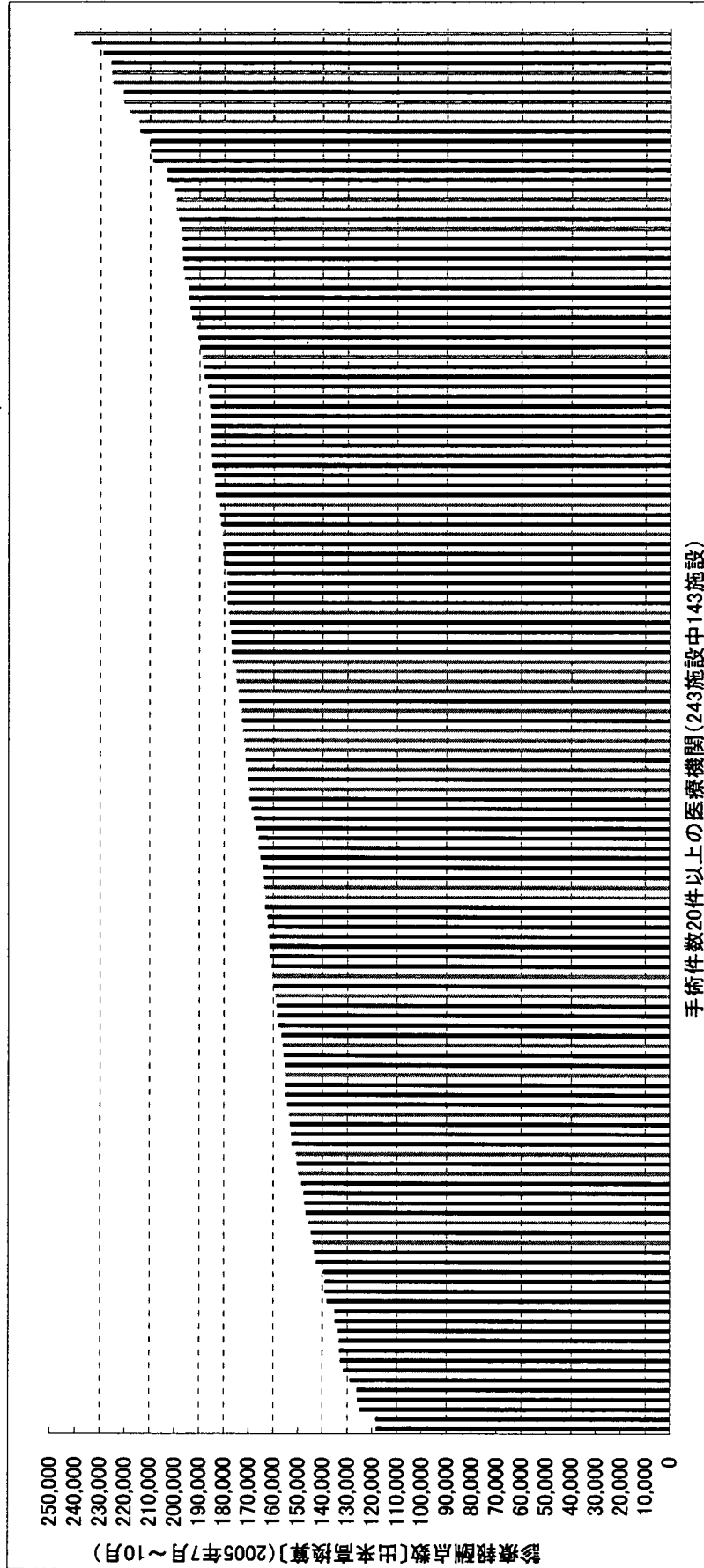
■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数20件以上の144施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は2.8日、最長の施設でも術前在院日数は8日間であり、術前在院日数の分布は施設間でバラツキが少なかった。

狭心症・慢性虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 7,420)

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患におけるPCI施行症例	診療報酬点数〔出来高換算〕	172,503	25,526	118,325	240,835	132,842	139,017	155,115	172,356	187,246	203,104	220,315
	特定機能病院(36施設)〔出来高換算総点数〕	181,523	26,291	144,049	240,835	149,107	152,368	162,641	174,795	197,961	222,793	227,474
	その他の参加病院(107施設)〔出来高換算の総点数〕	169,469	24,652	118,325	228,862	129,754	134,445	152,999	169,809	185,562	197,549	209,428



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■:特定機能病院

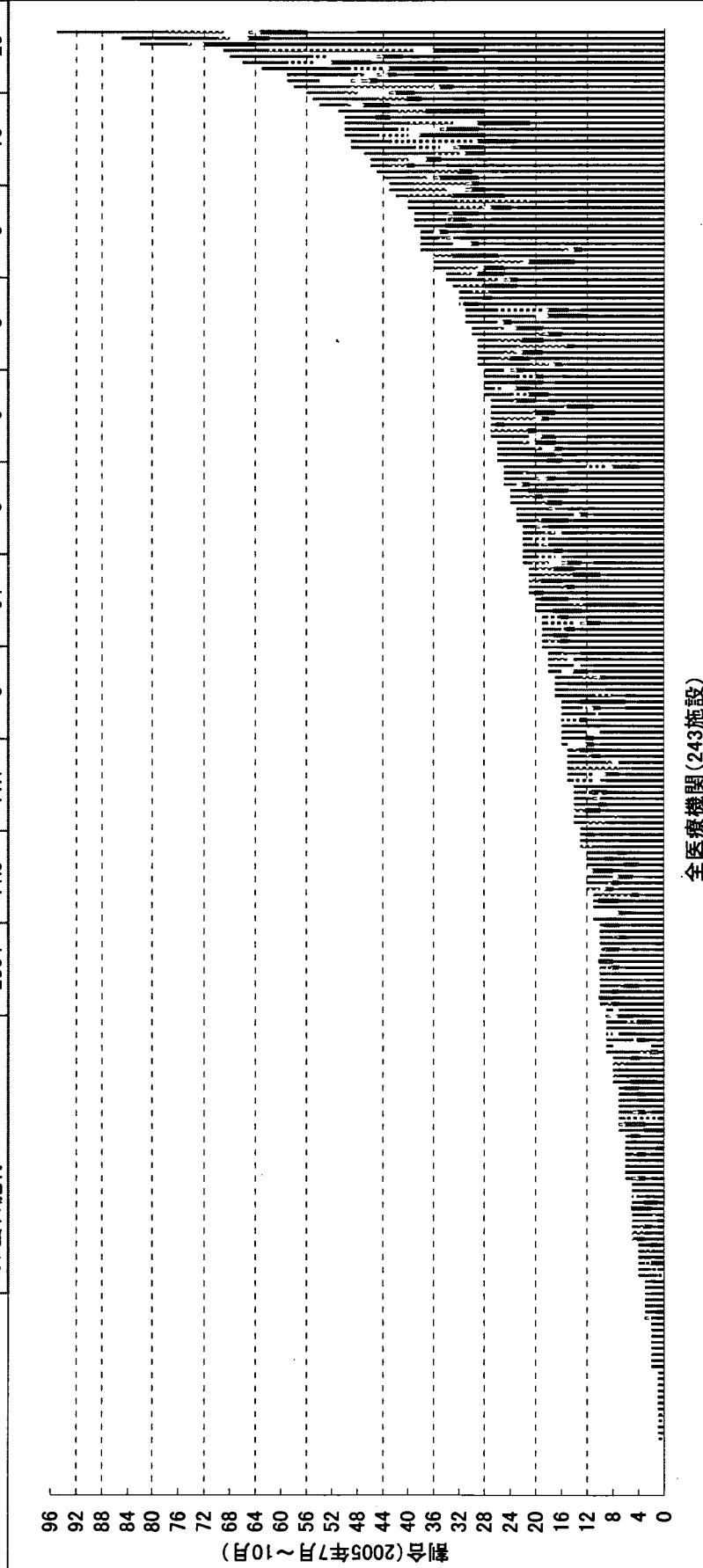
■:その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、手術件数20件以上の143施設を解析対象とした。全体的にみたら一入院当たりの診療報酬は約17万点強であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりも約1万点弱高額であった。

### 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞の治療内訳件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセントाइル											
分類名	解析内容	件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	非侵襲的治療	786	3.2	3.3	0	22	0	0	1	2	5	7	10
	その他の侵襲的治療	353	1.5	2.6	0	23	0	0	0	1	2	4	5
	CABG施行	125	0.5	1.1	0	8	0	0	0	0	1	2	3
	PCI+CABG施行	34	0.1	0.4	0	3	0	0	0	0	0	1	1
	PCI 2日後以降施行	382	1.6	2.0	0	10	0	0	0	1	2	4	6
	PCI 翌日施行	275	1.1	1.7	0	8	0	0	0	0	2	4	5
	PCI 当日施行	2804	11.5	11.1	0	64	0	0	3	9	16	26	31



全医療機関 (243施設)

【図の説明】※入院の契機となった傷病名がI21、I22のいずれかで入力された症例に限定した。

■: PCI 当日施行症例

■: PCI 翌日施行症例

■: PCI 2日後以降施行症例

■: 非侵襲的治療

■: PCI+CABG施行症例

■: CABG施行症例

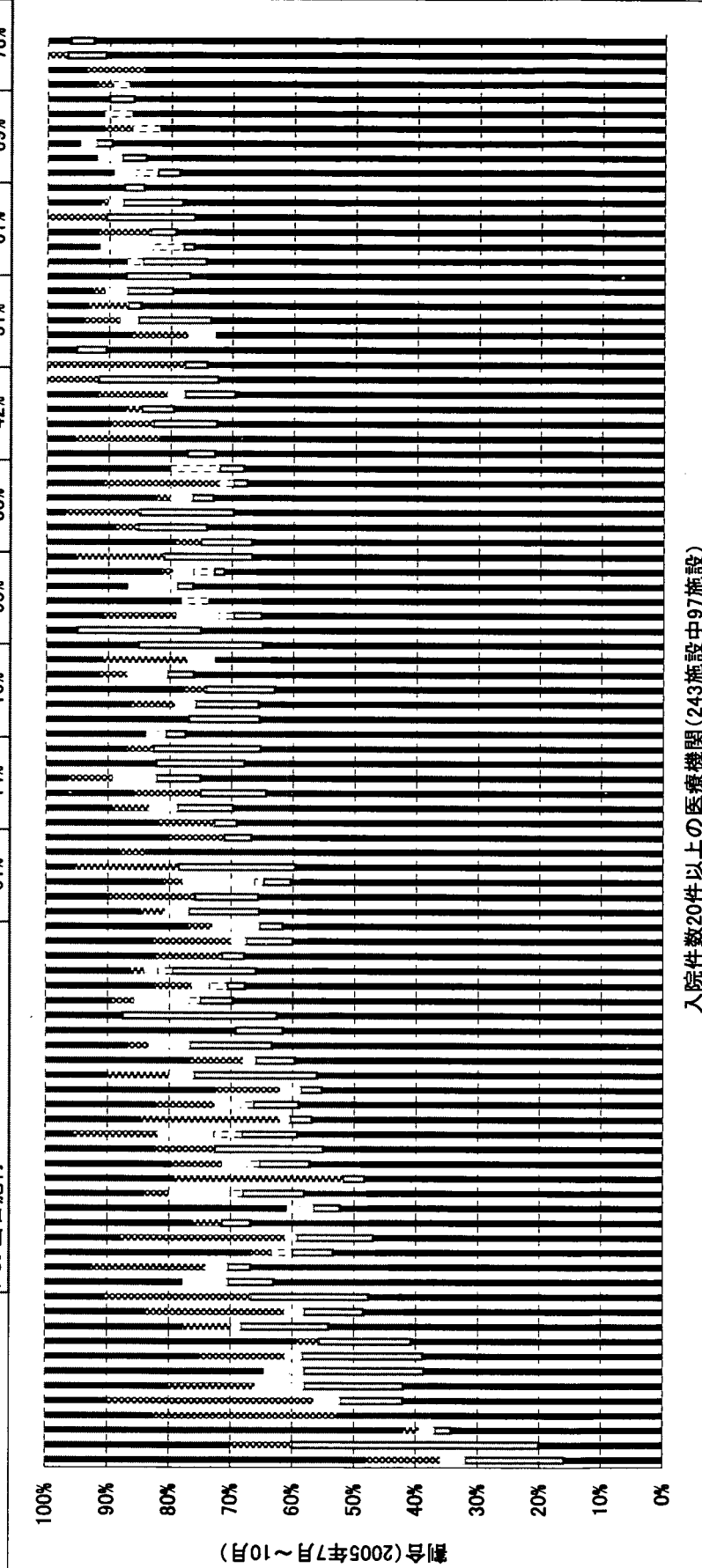
■: その他の侵襲的治療症例

■: 非侵襲的治療

【コメント】PCIはK614/K614-2/K614-3/K615、CABGはK5881/K5882のKコードの入力によりこれを抽出したところ、急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞症例においては全体の73%がPCIのみにより治療され、そのうちおよそ81%が入院当日に施行されたものであった。

急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞の治療内訳 (N = 3,519)

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	非侵襲的治療	15%	10%	0%	58%	3%	5%	9%	13%	20%	24%	34%
	その他の侵襲的治療	7%	8%	0%	33%	0%	0%	0%	5%	11%	17%	23%
	CABG施行	2%	3%	0%	12%	0%	0%	0%	0%	4%	7%	8%
	PCI+CABG施行	1%	2%	0%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	4%
	PCI 2日後以降施行	8%	7%	0%	40%	0%	1%	4%	7%	12%	18%	20%
	PCI 翌日施行	6%	6%	0%	24%	0%	0%	0%	4%	9%	13%	17%
	PCI 当日施行	61%	14%	16%	93%	38%	42%	51%	61%	69%	78%	82%



入院件数20件以上の医療機関(243施設中97施設)

【図の説明】※入院の契機となった傷病名が121、122のいずれかで入力された症例に限定した。

■: PCI 当日施行症例

□: PCI+CABG施行症例

▨: PCI 翌日施行症例

▩: CABG施行症例

▧: PCI 2日後以降施行症例

▨: その他の侵襲的治療症例

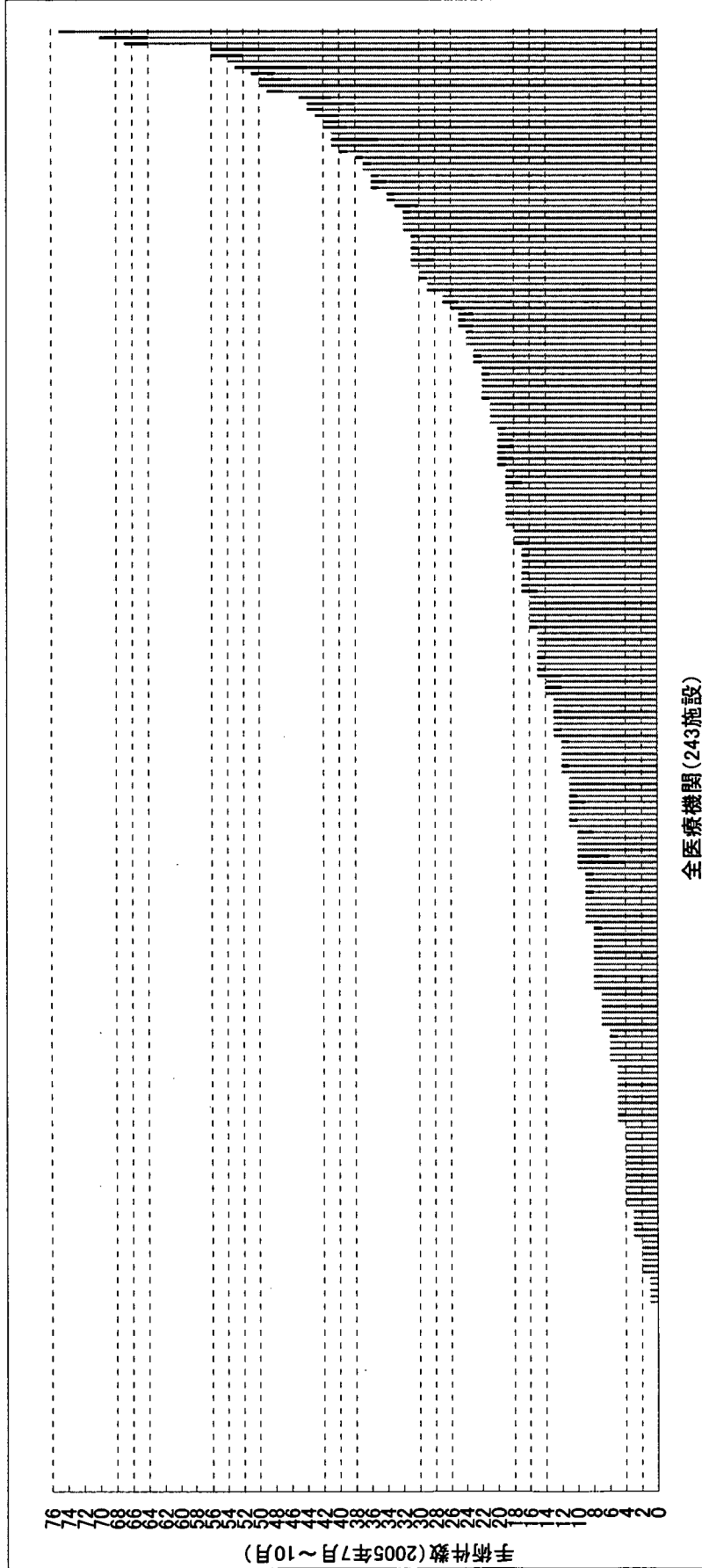
■: 非侵襲的治療

▩: PCIのみによる治療が選択され、CABGの施行割合が小さい状況 (2%)

【コメント】4ヶ月間の入院件数が20件以上であった97施設を解析対象とした。全体のおよそ75%の症例においてPCIのみによる治療が選択され、CABGの施行割合が小さい状況 (2%)であった。また、血栓溶解療法後にPCIを施行する症例は極めて少数であった。

# 急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術・経皮的冠動脈インターベンションの施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲 0500303x02 / 0500303x03 / 0500303x04 / 0500303x05											
	パーセンタイル											
	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	158	1.4	1.7	0	9	0	0	0	1	2	3	5.1
経皮的冠動脈インターベンション件数	3656	15.0	13.9	0	73	0	0	4	12	21	35	41



【図の説明】

全医療機関(243施設)

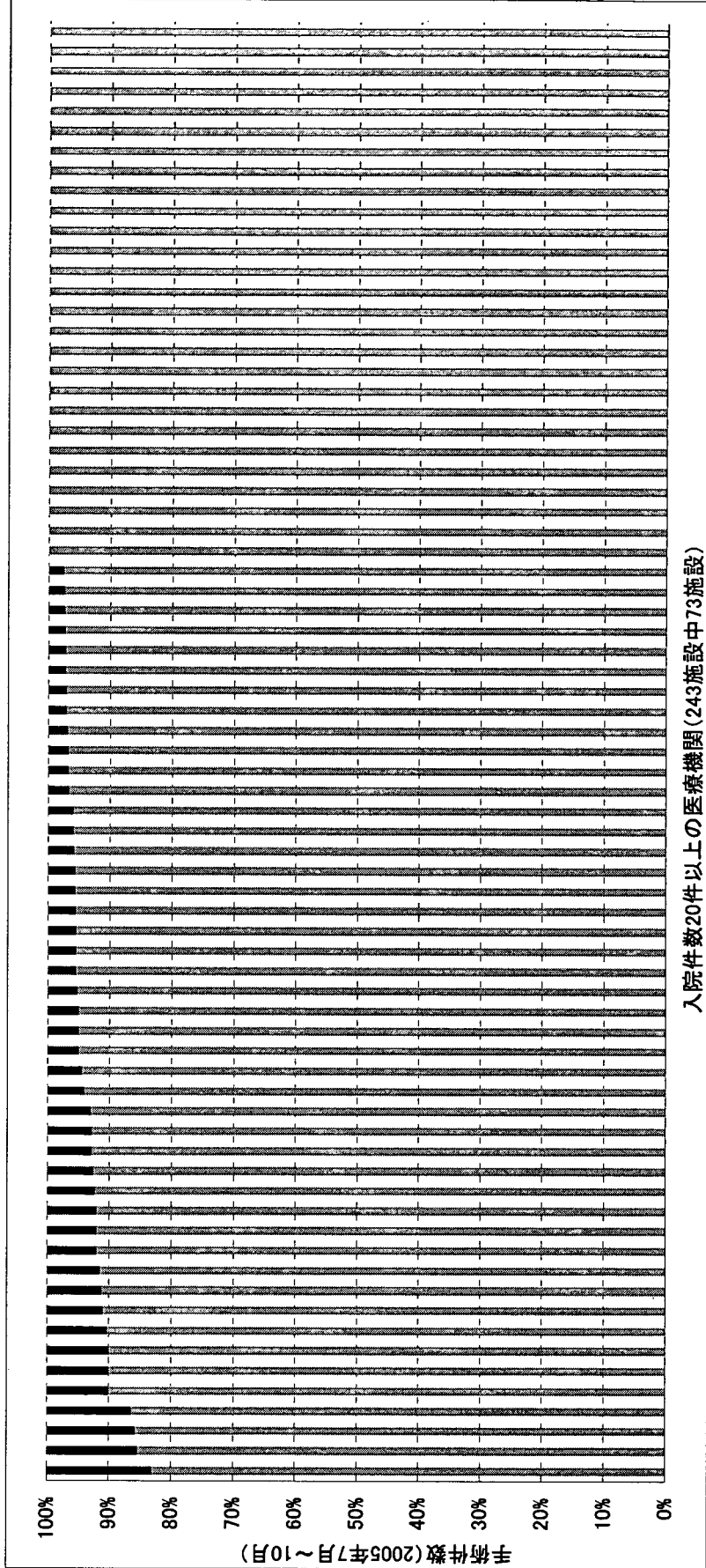
■ : 経皮的冠動脈インターベンション[DPC手術コード:04, 05およびKコード:K614, K614-2, K614-3, K615] ■ : 冠動脈バイパス術[DPC手術コード:02, 03]

【コメント】

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞症例について、経皮的冠動脈インターベンション(PCI)と冠動脈バイパス術(CABG)の件数を調べたところ、1件以上の症例を有する施設は、243施設中212施設(87%)だった。CABGの施行割合は全体の4%程度に過ぎず、ほとんどの症例でPCIが選択されていた。PCI施行件数の施設間のバラツキは大きく、中央値は12件、最小0件から最大73件まで分布していた。

# 急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術・経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N = 2,459)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
	0500303x02/0500303x03/0500303x04/0500303x05	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞		冠動脈バイパス術施行割合	4%	4%	0%	17%	0%	0%	0%	3%	7%	10%	11%
		経皮的冠動脈インターベンション施行割合	96%	4%	83%	100%	89%	90%	93%	97%	100%	100%	100%



**【図の説明】**

20件以上の施設を解析対象とした。

■: 経皮的冠動脈インターベンション [Kコード: K614, K614-2, K614-3, K615]

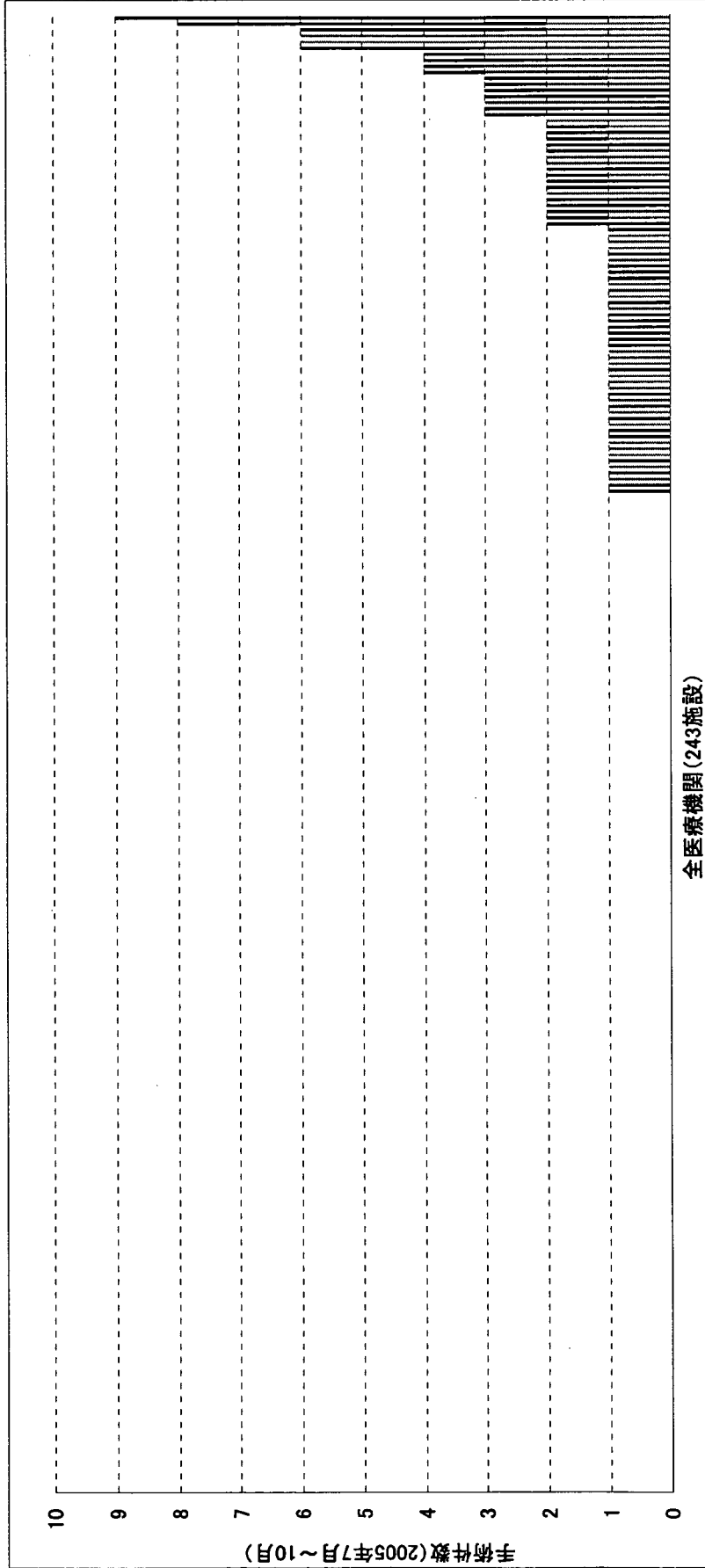
■: 冠動脈バイパス術 [DPC手術コード: 02, 03]

**【コメント】**

4か月間の入院権数が20件以上(件数上位25%に相当)であった73施設を解析対象とした。全体の96%の症例で経皮的冠動脈インターベンションが選択されており、最も少ない施設でもその割合は83%であった。

### 急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術の術式別施行件数

分類名	手術内容	パーセントایل												
		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	人工心肺を使用する冠動脈バイパス術(CABG)施行件数	87	0.4	1.0	0	8	0	0	0	0	0	0	1	2
	人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術(OPCAB)施行件数	71	0.3	0.9	0	6	0	0	0	0	0	0	1	2



【図の説明】

■ :人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術(OPCAB)[DPC手術コード:02]

▨ :人工心肺を使用する冠動脈バイパス術(CABG)[DPC手術コード:03]

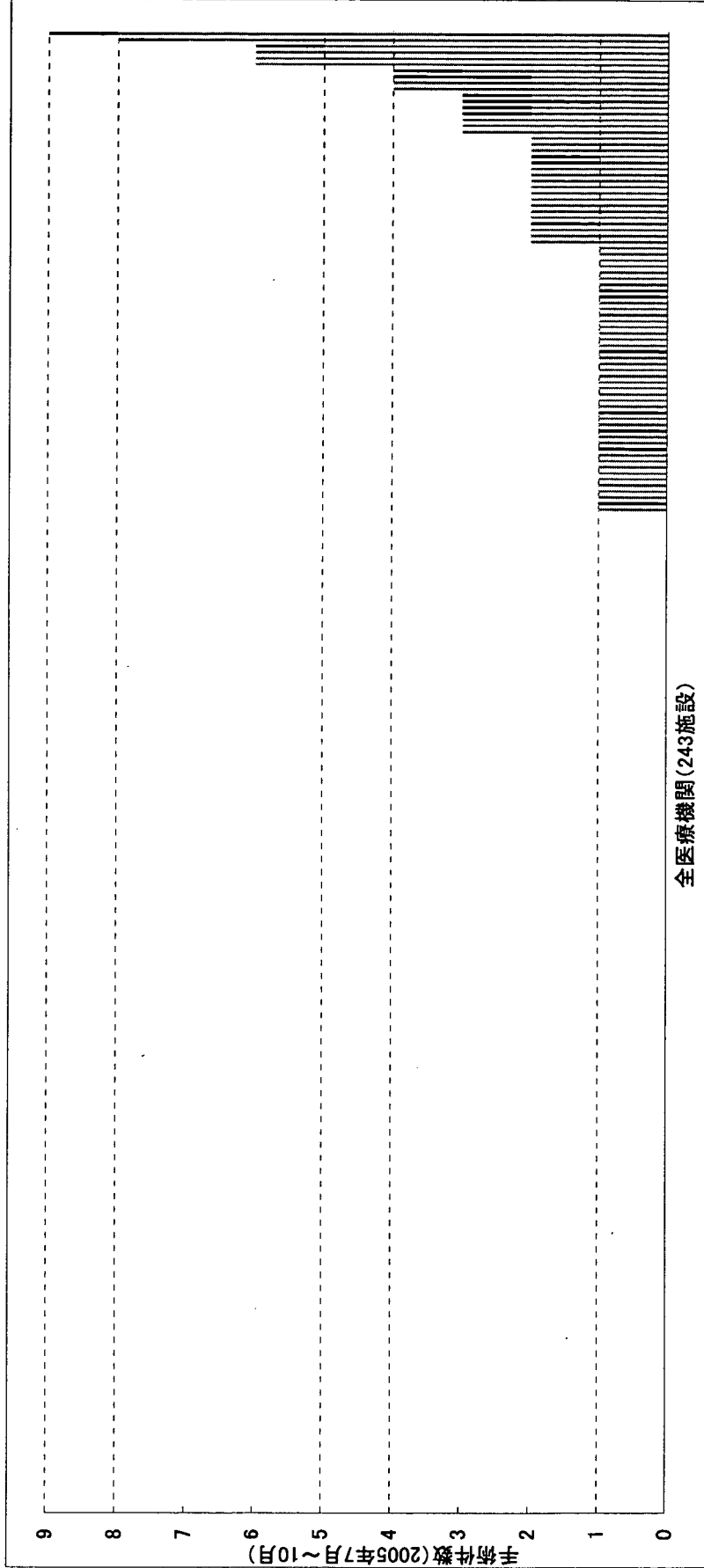
【コメント】

243施設中79施設(全体の33%)で急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞症例に対する冠動脈バイパス術(CABG)が施行されていたが、施行件数の中央値=0件、最大値=9件程度であり、件数は少なかった。CABG施行症例のうち、人工心肺を使用しないCABG(OPCAB)の施行割合は全体の45%であった。OPCABが全く実施されていない施設もみられた。



### 急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術の施行件数

分類名	解析内容	件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル										
							5	10	25	50	75	90	95				
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	術後死亡者数	21	0.1	0.3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	冠動脈バイパス術(OPCABFおよびCABG)後生存者数	137	0.6	1.2	0	8	0	0	0	0	0	1	2	2			



【図の説明】

■ : 生存者数

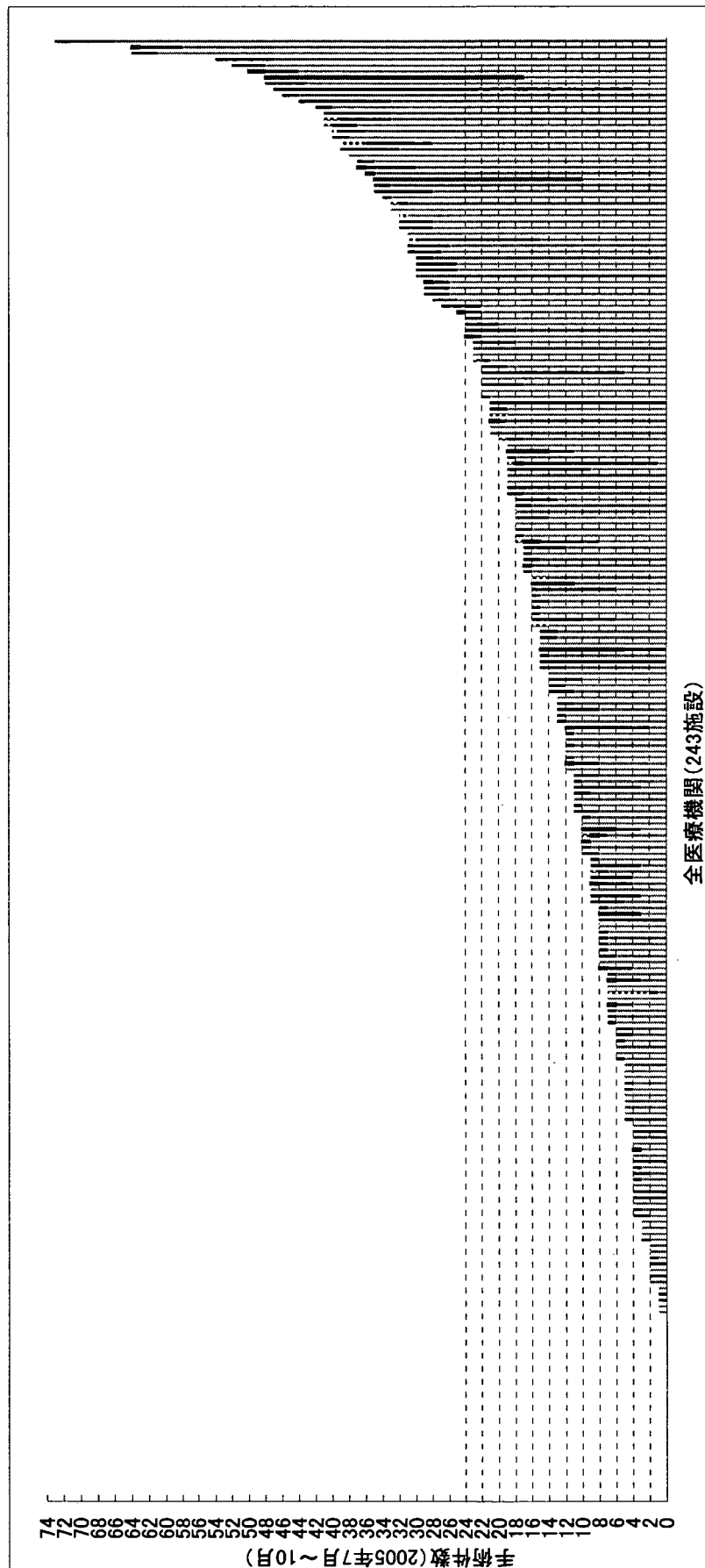
▨ : 死亡者数

【コメント】

243施設中79施設(33%)において冠動脈バイパス術症例が4か月間に1件以上あった。急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞症例に対し、冠動脈バイパス術が施行されることは少なかった。およそ1/4の施行施設において1~2件の死亡が発生していた(全体の死亡率は13%)。

### 急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンションの施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲	解析内容	パーセントイル														
			手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95			
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	0500303x04/ 0500303x05	アテレクトミー	27	0.1	0.5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		経皮的冠動脈血栓切除術	107	0.5	3.0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		経皮的冠動脈形成術	570	3.9	4.9	1	43	1	1	1	2	5	8	10.7			
		経皮的冠動脈ステント留置術	2952	14.8	12.4	0	66	2	3	5	11	21	33	38			



【図の説明】

ただし、複数のPCIを行った症例は、K614<K615<K614.2<K614.3の順で優先した

■: 経皮的冠動脈ステント留置術 [DPC手術コード:04およびKコード:K614-2]

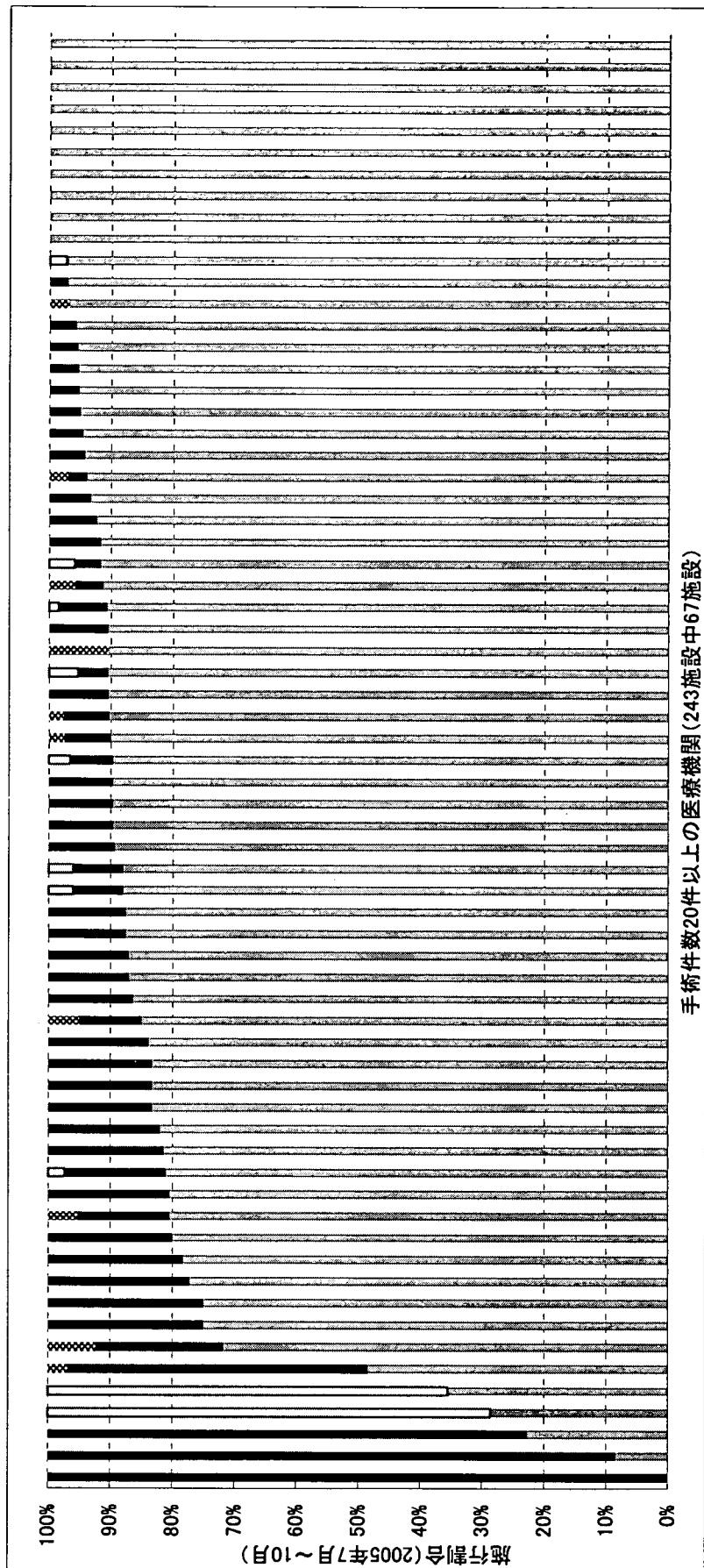
▨: 経皮的冠動脈血栓切除術 [DPC手術コード:04およびKコード:K614-3]

【コメント】

急性心筋梗塞や再発性心筋梗塞の治療として経皮的冠動脈インターベンション(PCI)を施行する施設は多く、全体の約90%(243施設中212施設)で実施されていた。施行件数には施設間で大きなバラツキが認められた。

# 急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N = 2,239)

分類名	パーセンタイル										
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	1%	2%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	5%
アテレクトミー施行割合	2%	12%	0%	71%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	4%
経皮的冠動脈血栓切除術施行割合	13%	19%	0%	100%	0%	0%	4%	8%	16%	22%	41%
経皮的冠動脈ステント留置術施行割合	84%	21%	0%	100%	31%	74%	83%	90%	95%	100%	100%



**【図の説明】**

20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 経皮的冠動脈ステント留置術 [DPC手術コード:04およびKコード:K615]

■ : 経皮的冠動脈血栓切除術 [DPC手術コード:04およびKコード:K614-2]

■ : 経皮的冠動脈形成術 [DPC手術コード:05およびKコード:K614]

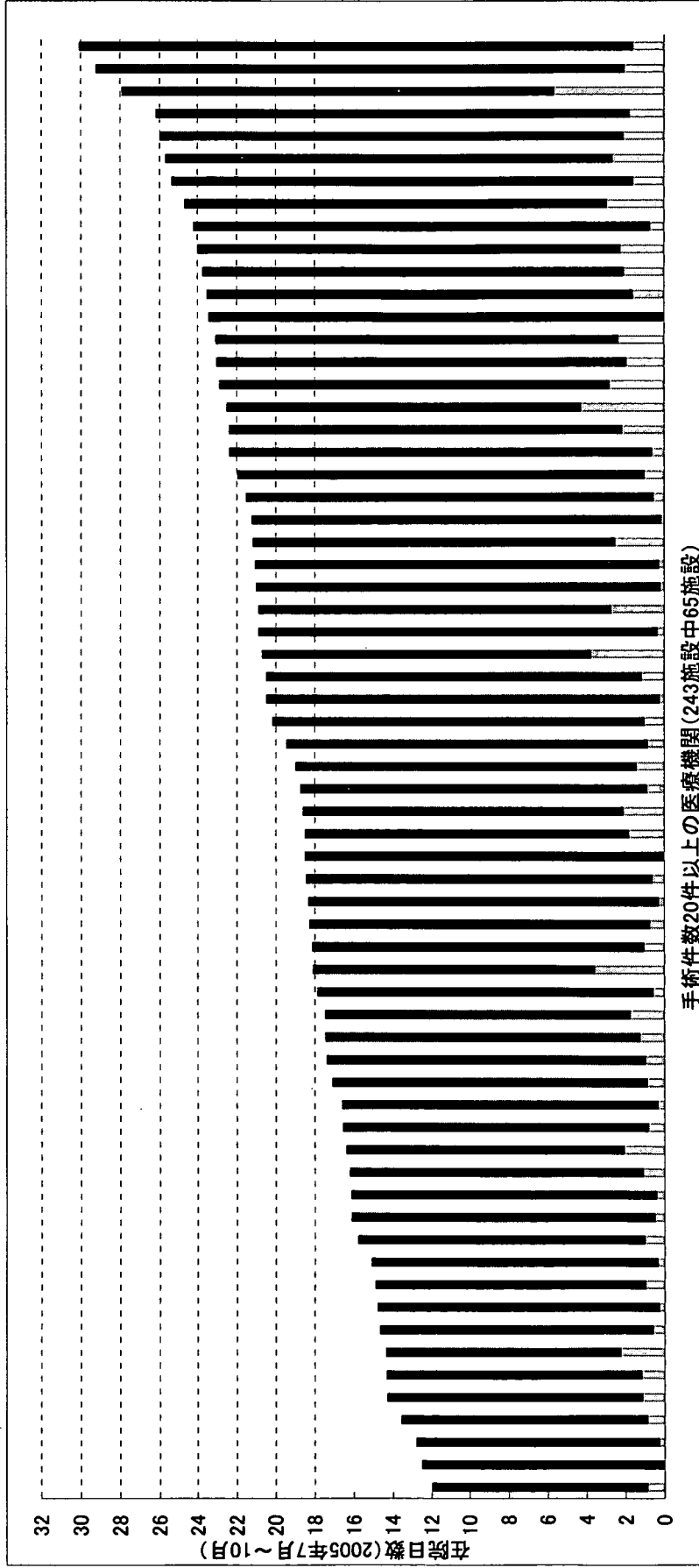
■ : アテレクトミー [DPC手術コード:04およびK614-3]

**【コメント】**

4か月間で手術件数20件以上(件数上位25%に相当)の67施設を解析対象とした。本邦では、欧米諸国と比較してステント留置術の施行割合が高いと指摘されているが、本解析においてもその傾向が示された(平均84%)。施設別にみたステント施行割合は0%から100%まで分布しており、大きなバラツキが認められた。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における平均在院日数(N = 2,106)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
	0500303x04	および0500303x05	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞におけるPCI施行症例			在院日数	19.7	4.2	12.0	30.1	13.7	14.5	16.6	19.0	22.5	25.1	26.2
			術後在院日数	18.3	3.8	11.1	28.5	12.6	13.5	15.7	18.1	21.0	23.2	23.9
			術前在院日数	1.4	1.1	0.0	5.7	0.2	0.3	0.6	1.0	2.1	2.7	3.4



手術件数20件以上の医療機関(243施設中65施設)

【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数が20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

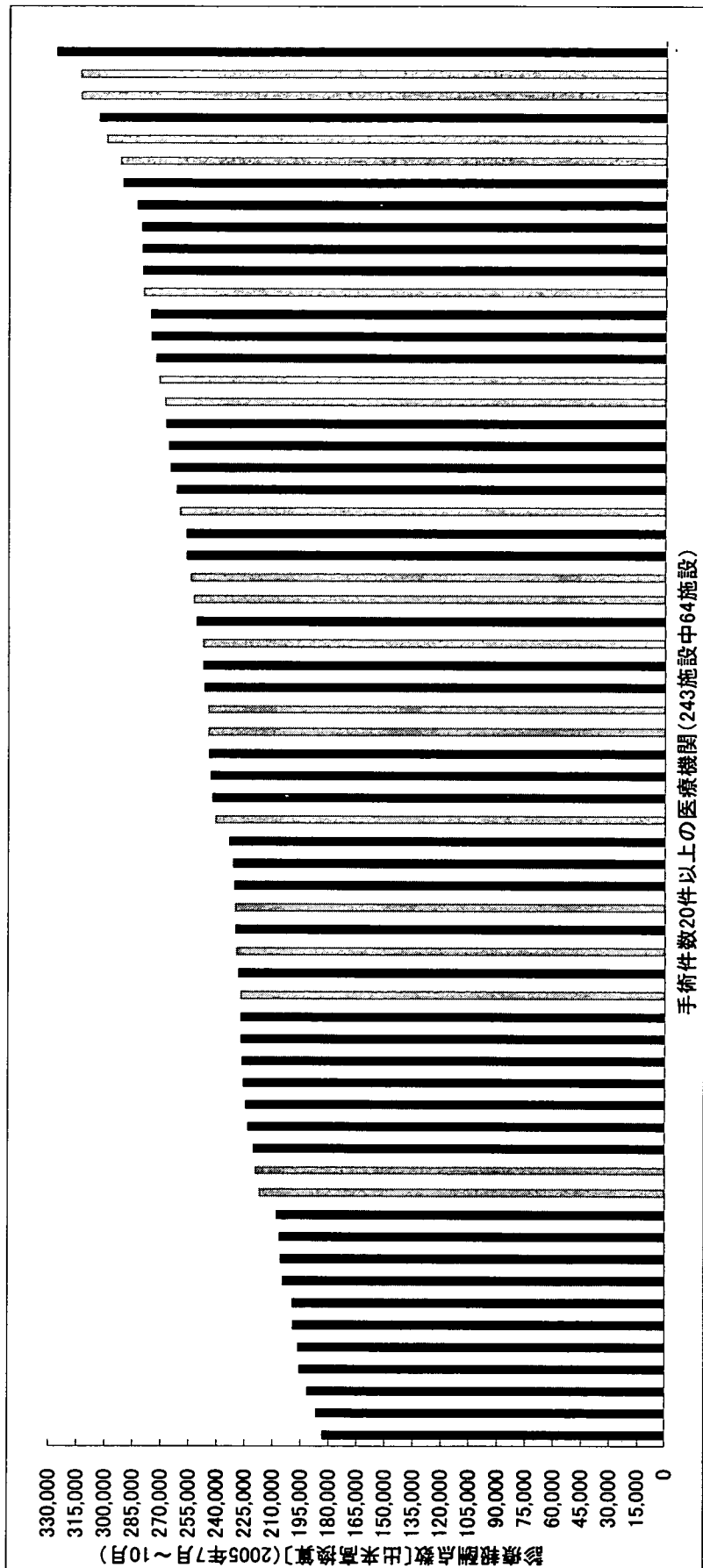
■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数20件以上の65施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は1.0日であり、5日以上の上の術前在院日数は1施設のみであった。また、外れ値下位2.5%未満に72件が相当したが、そのうち6件が1施設で占められていた。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 2,084)

分類名	解析内容	パーセントाइル									
		平均値	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞におけるPCI施行症例	診療報酬点数〔出来高換算〕	246,213	183,572	326,855	196,011	201,238	225,711	245,002	269,573	289,033	303,369
	特定機能病院(19施設)〔出来高換算総点数〕	258,775	217,641	314,340	219,364	226,132	236,024	253,265	276,069	302,937	313,912
	その他の参加病院(45施設)〔出来高換算の総点数〕	240,909	183,572	326,855	192,736	197,728	220,435	233,814	266,565	281,048	289,810



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(20件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■: 特定機能病院

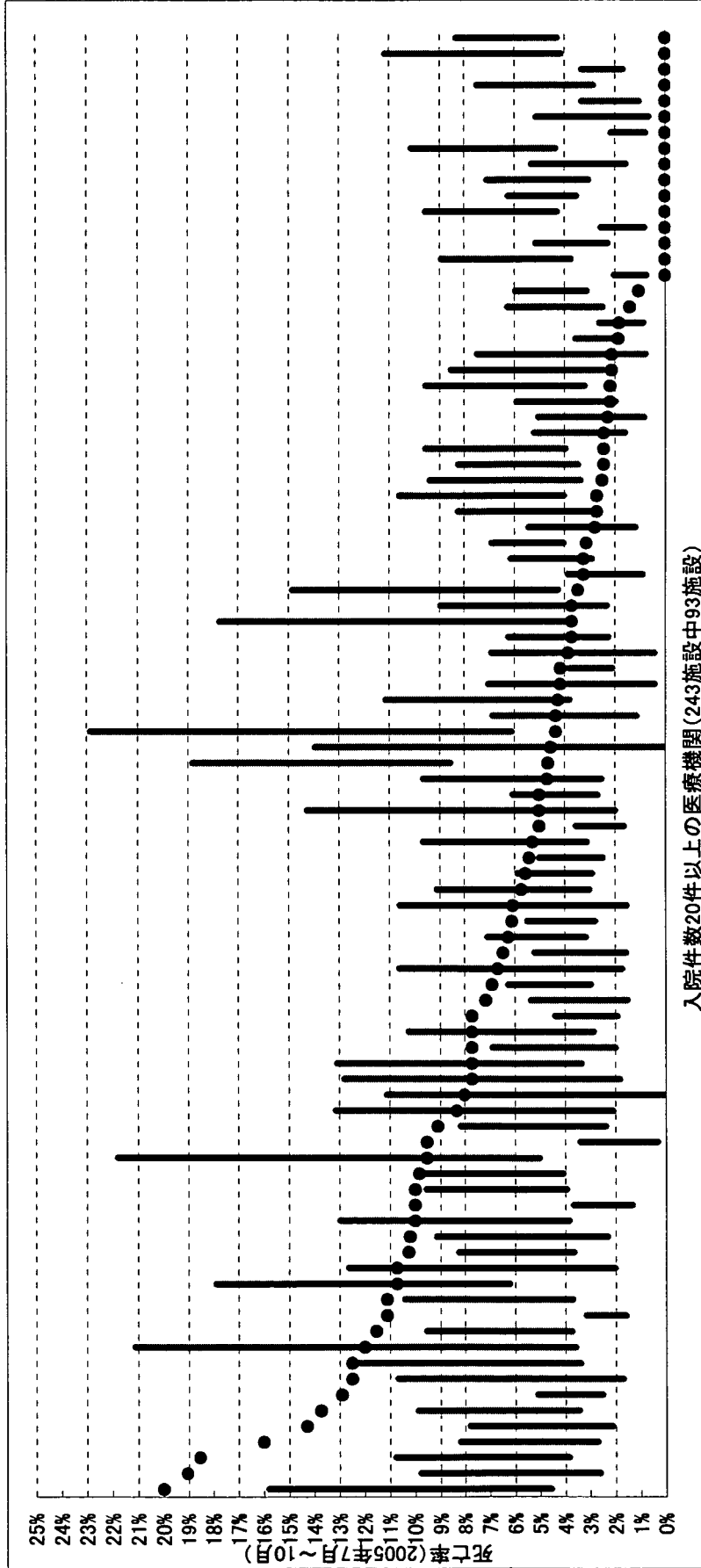
▨: その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数20件以上の64施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬は約24万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりも2万点弱高額であった。

### 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞における観測死亡率と予測死亡率(N = 3,368)

分類名	解析内容		パーセンタイル										
	観測死亡率	予測死亡率	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	5.7%	8.6%	4.8%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	2.2%	4.7%	9.1%	11.9%
	2.6%	8.6%	4.4%	2.0%	22.9%	3.2%	22.9%	3.2%	3.6%	5.4%	8.3%	10.6%	13.8%
		2.6%	1.4%	0.0%	8.6%	0.6%	8.6%	0.6%	0.8%	1.7%	2.5%	3.6%	4.4%



入院件数20件以上の医療機関(243施設中93施設)

【図の説明】※入院の契機となった病名がI21、I22のいずれかで入力された症例に限定した。

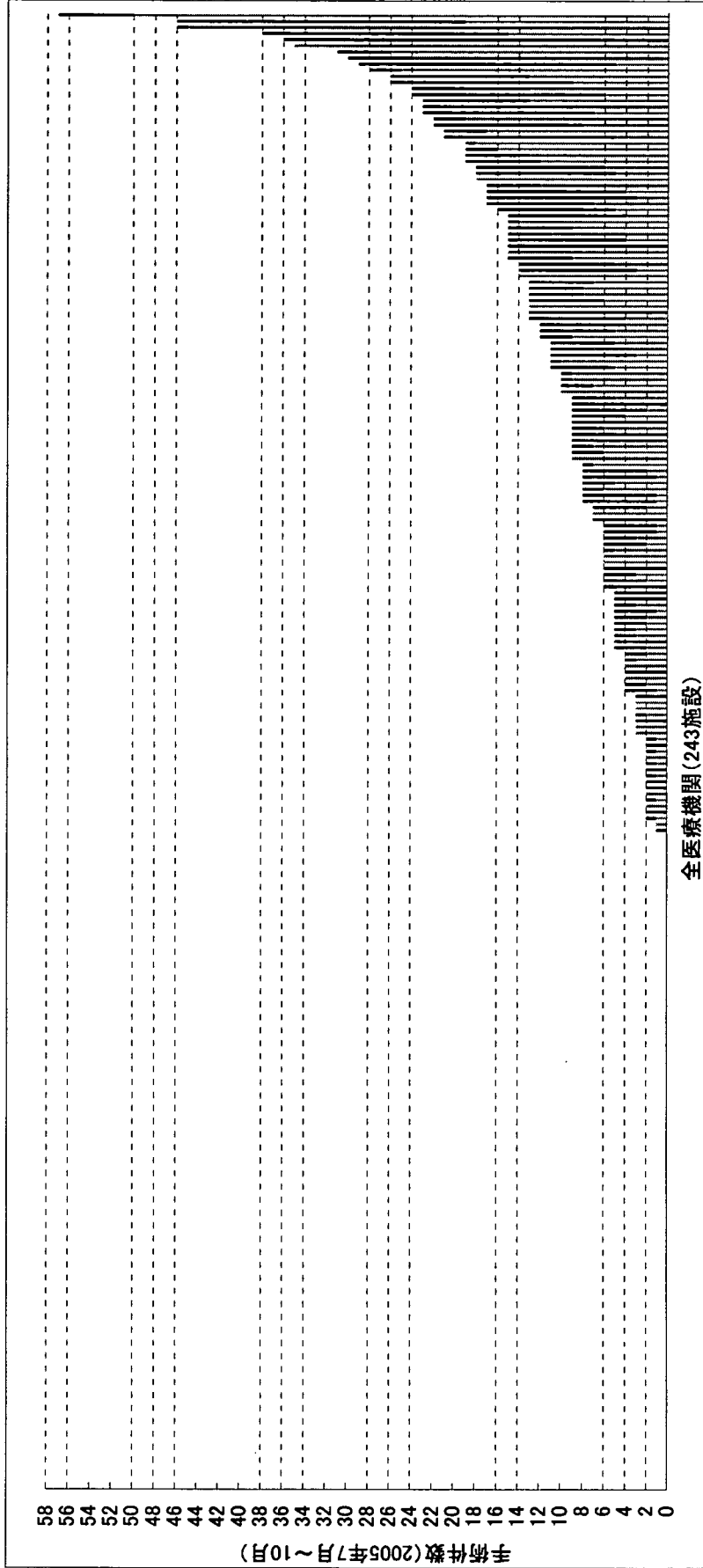
20件以上の入院件数を有する施設のみを解析の対象とした。

- 観測死亡率【死亡件数 / 入院件数】
- 予測死亡率95%信頼区間【予測死亡率 ± 1.96 × 予測死亡率の標準誤差】

【コメント】病院別に観測死亡率(粗死亡率)を算出し、次にDPCデータに含まれる情報の中から、死亡に関連する要因(重症度関連要因・リスク要因)を用いて死亡率の予測モデルを構築し、多重ロジスティック回帰分析の結果から病院ごとに予測死亡率とその95%信頼区間を計算した。予測能の高さを示す指標(C-statistics)は、0.86である。解析対象となった93施設のうち、30施設において治療成績(観測死亡率)が予測死亡率の推定範囲よりも低く、急性心筋梗塞の診療パフォーマンスが良好であることを示唆している可能性があると考えられた。

### 虚血性心疾患の冠動脈バイパス術の術式別施行件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
0500303x02/ 0500503x02/ 0500303x03/ 0500503x03		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
分類名	解析内容	742	5.5	5.9	0	36	0	0	1	4	7	13	16
急性心筋症/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	人工心臓を使用する冠動脈バイパス術(CABG)												
	人工心臓を使用しない冠動脈バイパス術(OPCAB)	858	6.4	8.0	0	50	0	0	1	4	8.5	14.6	19



【図の説明】

■ : 人工心臓を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB) [DPC手術コード:02]

■ : 人工心臓を使用する冠動脈バイパス術 (CABG) [DPC手術コード:03]

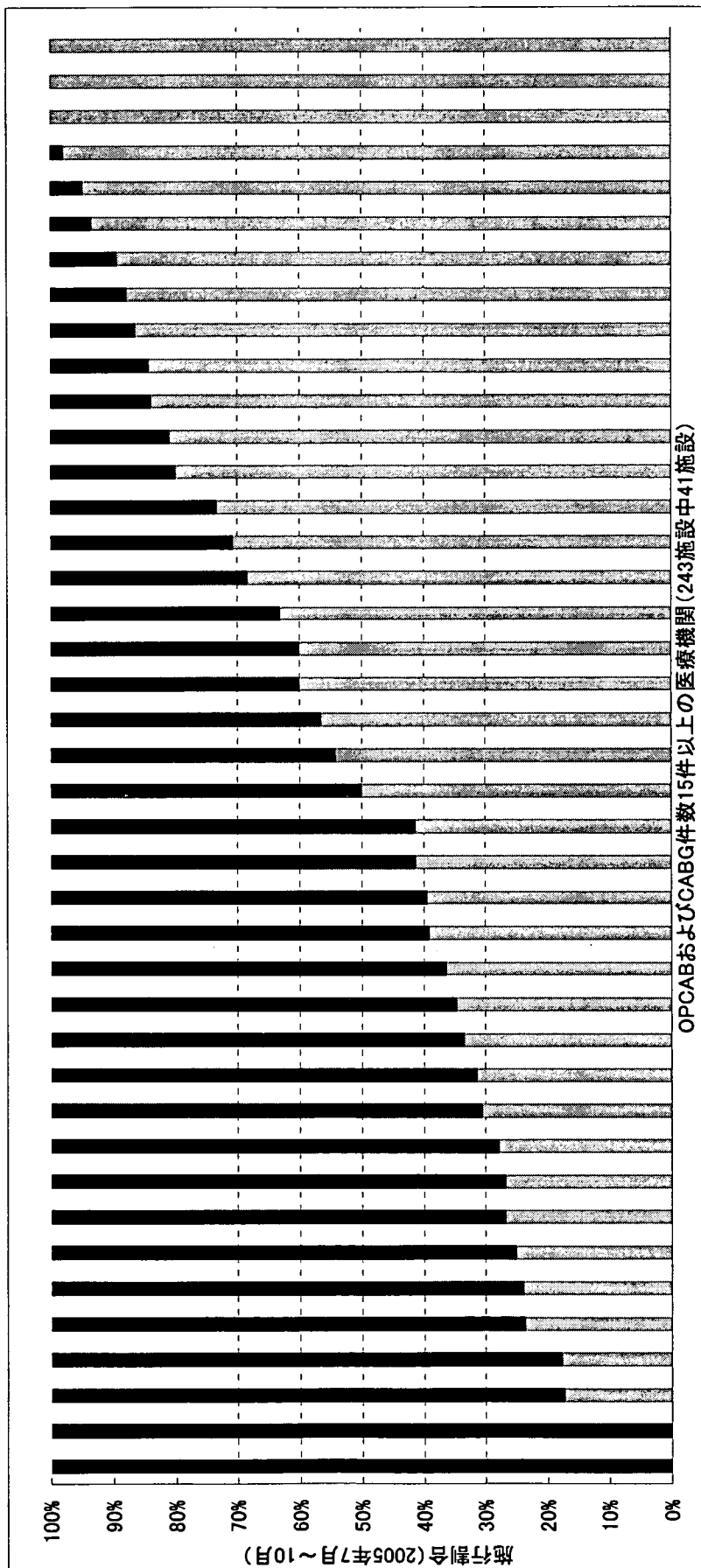
全医療機関 (243施設)

【コメント】

243施設中135施設(56%)において冠動脈バイパス術(CABG)がなされた。CABG施行症例のうち、人工心臓を使用しないCABG(OPCAB)の施行割合は全体の54%であった。OPCABを全く実施しなかった施設もみられた。中央値では、両術式は4件であり同数であるが、一部の施設において集中的にOPCABが施行されているため、総数ではOPCABが約100件多く施行されていた。

# 虚血性心疾患の冠動脈バイパス術の術式別施行割合(N = 965)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
0500303x02/ 0500503x02/ 0500303x03/ 0500503x03		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
分類名	解析内容	45%	30%	0%	100%	0%	5%	16%	46%	70%	76%	83%
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	人工心肺を伴う冠動脈バイパス術(CABG)の施行割合	55%	30%	0%	100%	17%	24%	30%	54%	84%	95%	100%
	人工心肺を伴わない冠動脈バイパス術(OPCAB)の施行割合											



【図の説明】

件数上位25% (15件以上) の施設を解析対象とした。

■ : 人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB) [DPC手術コード:02]

■ : 人工心肺を使用する冠動脈バイパス術 (CABG) [DPC手術コード:03]

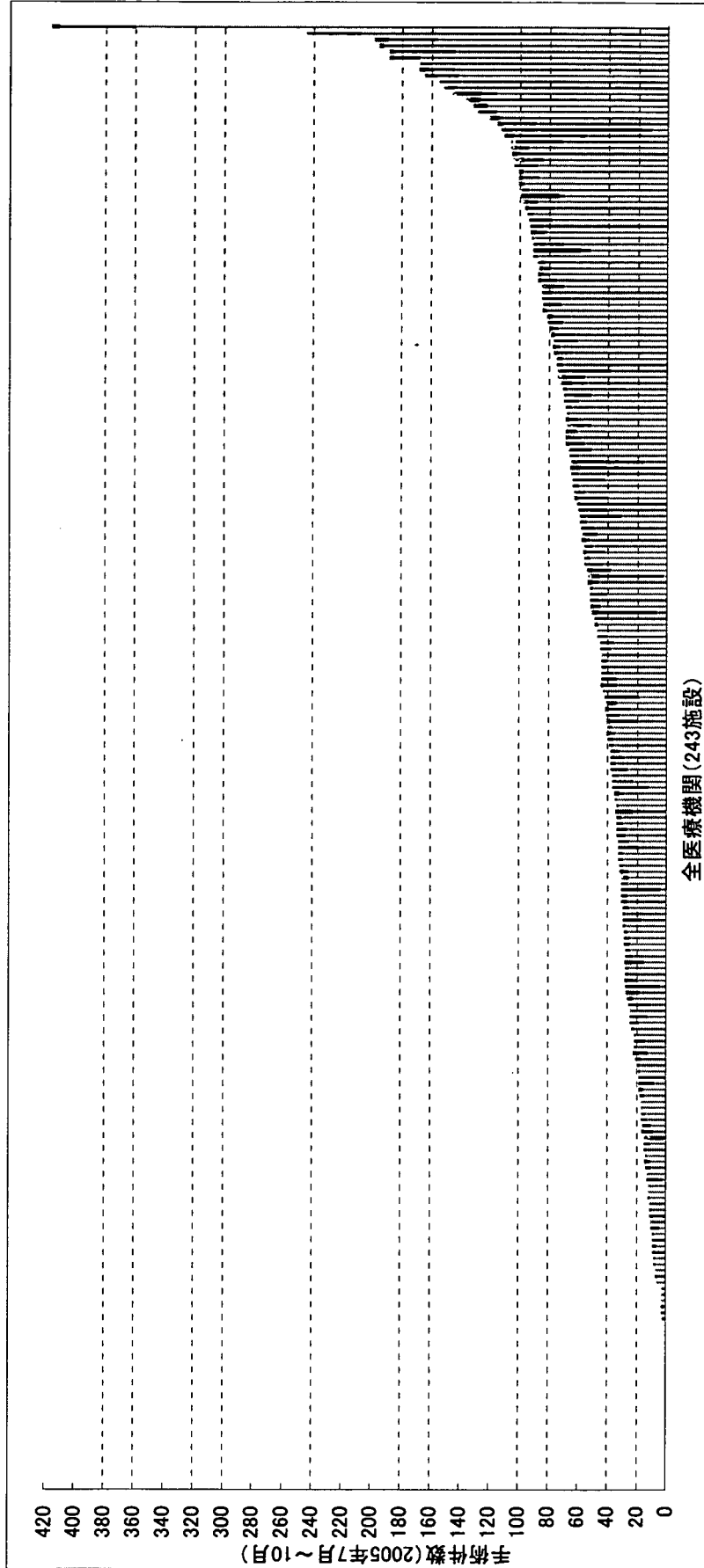
【コメント】

手術件数が上位25%に相当する15件以上の症例を有する41施設に限定して解析をおこなった。冠動脈バイパス術 (CABG) の術式内訳は、人工心肺を使用しないCABG (OPCAB) とCABGをほぼ同数の比率で施行している医療機関は少なく、多くの施設ではどちらかの術式に偏った選択である現状が明らかとなった。全体的にはOPCABの施行割合がわずかに高かった。



### 虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンションの施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
	0500303x04/0500303x05/0500503x05/0500503x06/0500503x07/0500503x08	0500303x04/0500303x05/0500503x05/0500503x06/0500503x07/0500503x08	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患			62	0.3	0.8	0	6	0	0	0	0	0	1	2
アテレクトミー			237	1.0	3.1	0	31	0	0	0	0	1	2	5
経皮的冠動脈血栓切除術			2073	8.5	12.1	0	102	0	0	1	4	11	19	32
経皮的冠動脈形成術			9876	40.6	43.7	0	360	0	0	10	29	60	88	117



【図の説明】ただし、複数のPCIを行った症例は、K614<K615<K614.2<K614.3の順で優先した

■: 経皮的冠動脈インターベンション(PCI)施行手術症例があった。全体的にはステント留置術の施行割合が大きかった(平均81%)。施設別のステント施行件数は中央値29件、最小0件、最大360件と、大きなバラツキが認められた。経皮的冠動脈形成術もその施行件数には、施設間で大きな

■: 経皮的冠動脈血栓切除術 [Kコード: K615]

■: 経皮的冠動脈形成術 [Kコード: K614-2]

※急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞(0500303)はKコード、慢性虚血性心疾患(0500503)はDPC手術コードを用いて抽出した。

【コメント】

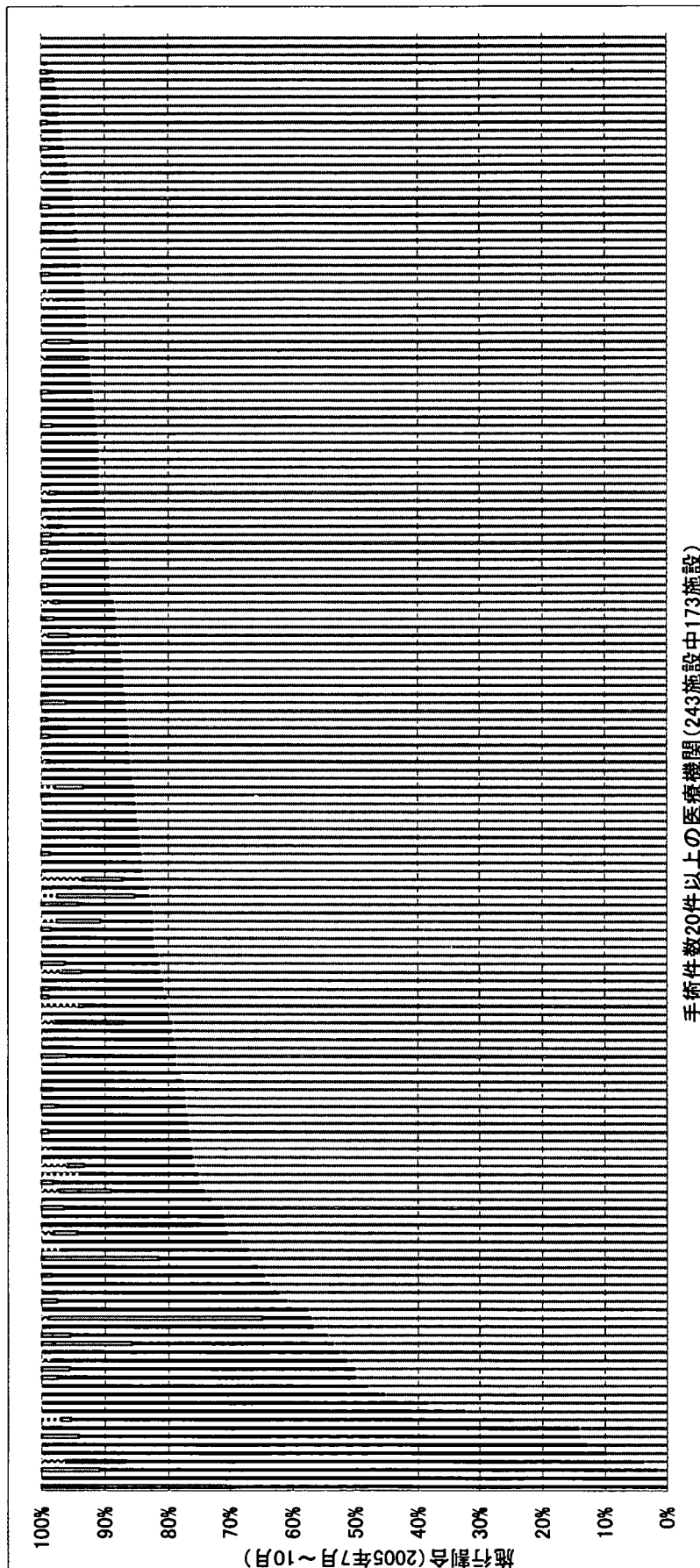
243施設中215施設(88%)において4か月間に1例以上の経皮的冠動脈インターベンション(PCI)施行手術症例があった。全体的にはステント留置術の施行割合が大きかった(平均81%)。施設別のステント施行件数は中央値29件、最小0件、最大360件と、大きなバラツキが認められた。経皮的冠動脈形成術もその施行件数には、施設間で大きなバラツキが認められた(中央値4件、最小0件、最大102件)。

# 虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N = 11,764)

解析対象DPC番号の範囲 0500303x04/ 0500503x05/ 0500503x06/ 0500503x07/ 0500503x08

パーセンタイル

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル									
						5	10	25	50	75	90	95			
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	アテレクトミー施行割合	0%	1%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	3%	
	経皮的冠動脈血栓切除術施行割合	2%	5%	0%	34%	0%	0%	0%	0%	1%	5%	9%	9%	9%	
	経皮的冠動脈形成術施行割合	19%	20%	0%	100%	2%	3%	7%	13%	21%	43%	69%	69%	69%	
	経皮的冠動脈ステント留置術施行割合	79%	21%	0%	100%	29%	54%	77%	86%	92%	95%	97%	97%	97%	



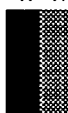
手術件数20件以上の医療機関(243施設中173施設)

**【図の説明】**

20件以上の施設を解析対象とした。

■: 経皮的冠動脈ステント留置術 [Kコード: K615]

■: 経皮的冠動脈血栓切除術 [Kコード: K614-2]



■: 経皮的冠動脈形成術 [Kコード: K614]

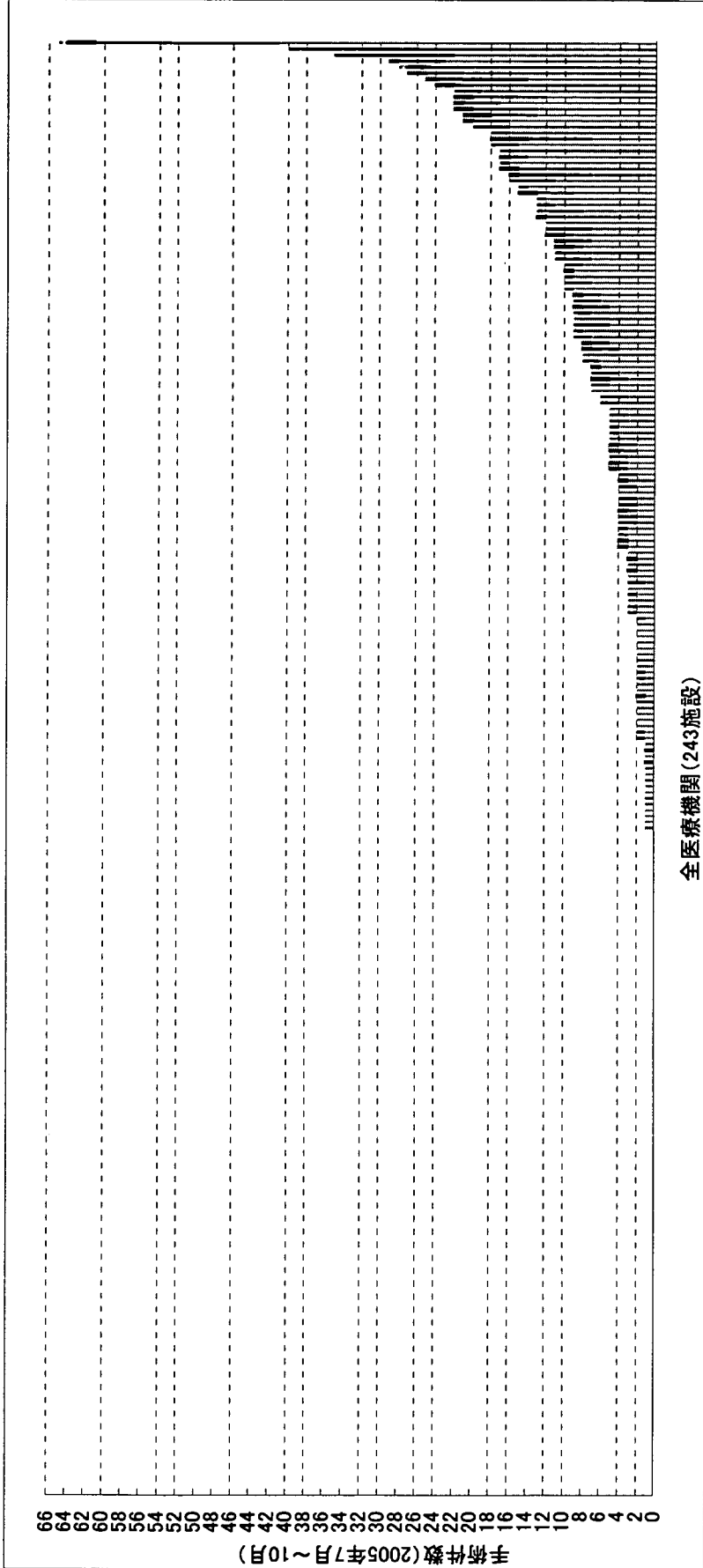
■: アテレクトミー [Kコード: K614-3]

**【コメント】**

手術件数20件以上の173施設を解析対象とした。本邦では、欧米諸国と比較してステント留置術の施行割合が高いと指摘されているが、本解析においてもその傾向が示された(平均79%)が、ステント施行割合は0%から100%まで分布しており、大きなバラツキが認められた。経皮的冠動脈インターベンションの治療選択に当たっては、ステント留置術が主流であることが確認されたが、その一方で、経皮的冠動脈形成術が主流となっている施設もあり、術式選択においてバラツキが示された。

### 弁膜症の手術件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル												
	0500803x01/	0500803x02/	0500803x03/	0500803x04	5	10	25	50	75	90	95				
弁膜症	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値								
	ロス手術件数	2	0.0	0.1	0	1									
	大動脈瘤切除術件数	57	0.2	0.6	0	4									
	弁(輪)形成/切開術件数	264	1.1	2.5	0	20									
	弁置換術件数	814	3.3	5.6	0	41									



【図の説明】

■:弁置換術[DPC手術コード:03]

□:大動脈瘤切除術[DPC手術コード:02]

■:弁(輪)形成/切開術[DPC手術コード:04]

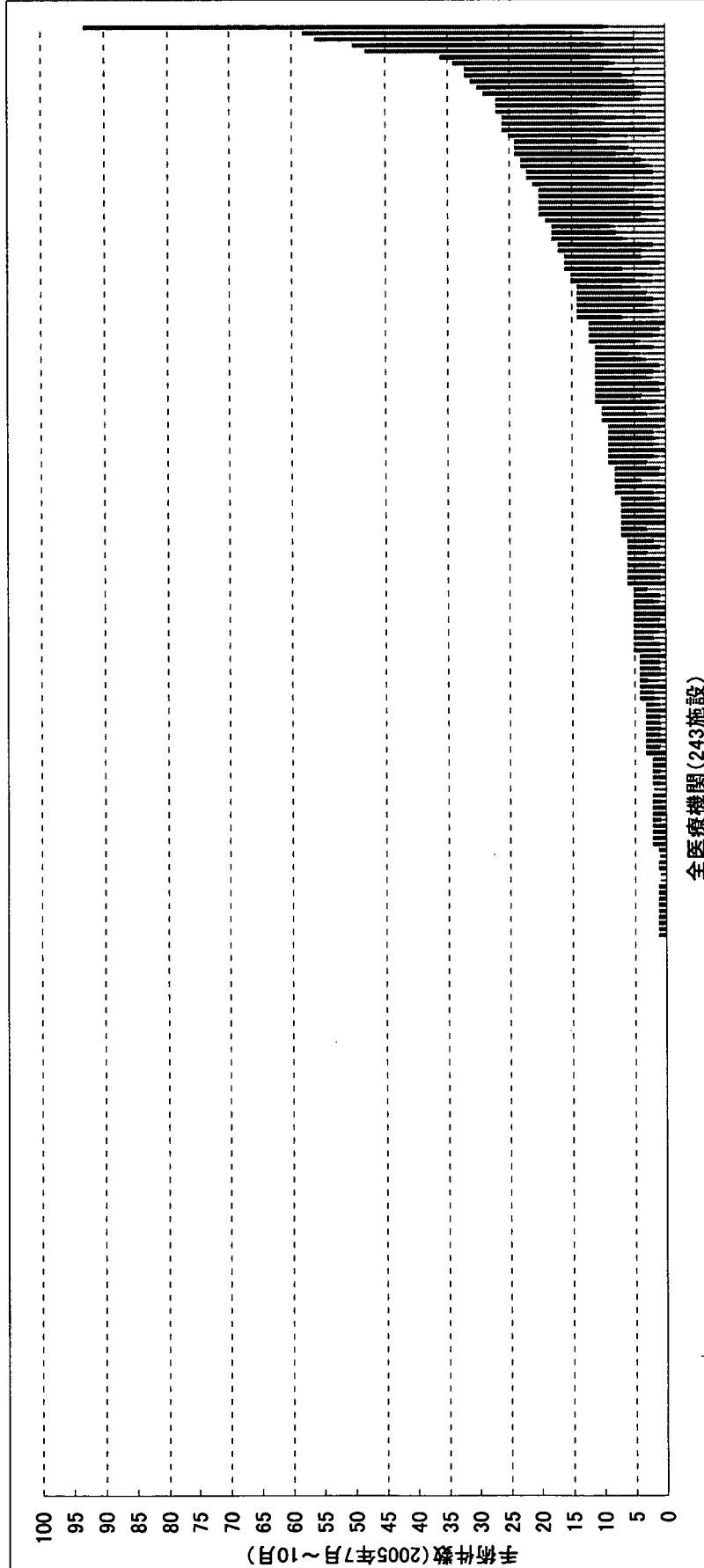
■:ロス手術[DPC手術コード:01]

【コメント】

4か月間において手術件数1例以上の症例があった施設は243施設中132施設(54%)であった。弁膜症の治療は弁置換術が全体の72%を占め主流となっているが、その施行件数には施設間でバラツキがみられた(中央値:1件、最小値:0件、最大値:41件)。また、大動脈瘤切除術は弁置換術のおよそ15分の1程度施行されていた。

# 解離性大動脈瘤・破裂性大動脈瘤・非破裂性大動脈瘤・腸骨動脈瘤切除術の大動脈瘤症例の施行件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
0501613*01~0501613*04 / 0501613*06 / 0501613*07 / 0501623*01~0501623*03 / 0501623*07 / 0501623*08 / 0501633*01~0501633*08		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
分類名	解析内容	1402	5.8	9.6	0	83	0	0	0	2	7.5	16	22
解離性大動脈瘤、破裂性大動脈瘤、および非破裂性大動脈瘤/腸骨動脈瘤	大動脈瘤切除術施行件数(破裂性)	116	0.5	1.0	0	6	0	0	0	0	1	1	3
	大動脈瘤切除術施行件数(解離性)	294	1.2	2.2	0	13	0	0	0	0	1	4	6
	大動脈瘤切除術施行件数(非破裂性)												



全医療機関(243施設)

【図の説明】

- : 非破裂性大動脈瘤・腸骨動脈瘤における大動脈瘤切除術[DPC手術コード:0501633x01~08]
- : 解離性大動脈瘤における大動脈瘤切除術[DPC手術コード:0501613x01~04および06, 07]
- : 破裂性大動脈瘤における大動脈瘤切除術[DPC手術コード:0501623x01~03および07, 08]

【コメント】

解離性大動脈瘤(DPC:050161)・破裂性大動脈瘤(DPC:050162)・非破裂性大動脈瘤/腸骨動脈瘤(DPC:050163)の症例に対して大動脈瘤切除術の手術件数が4か月間で1件以上あった施設は243施設で全体の62%であった。各施設の大動脈瘤切除術施行件数の中央値は2件であったが、最小10件、最大83件と、施設間で大きなバラツキがみられた。また、大動脈瘤切除のおよそ7.5割は破裂性大動脈瘤において施行されたものであった。